

## 通期の見通し

平成 21 年度の販売電力量については、景気低迷に伴う特定規模需要の減少などを織り込み、平成21年10月に公表した想定値（2,832 億 kWh）を下回る 2,806 億 kWh（前年度比 2.9%減）を見込んでおります。

これにより、売上高は、前回公表した想定値（連結：5 兆 1,000 億円程度、単独：4 兆 8,800 億円程度）を連結で 5 兆 400 億円程度、単独で 4 兆 8,200 億円程度に変更いたしました。

一方、費用面では、電気事業において、原油価格の下落や為替の円高化、販売電力量の減少などにより、燃料費および購入電力料の大幅な減少が見込まれます。

これらにより、経常利益は連結で 1,900 億円程度、単独で 1,500 億円程度、当期純利益は、連結で 1,250 億円程度、単独で 1,000 億円程度を予想しております。

### <連結>

売上高	5 兆 400 億円程度（前回発表予想：5 兆 1,000 億円程度）
経常利益	1,900 億円程度（前回発表予想：未定）
当期純利益	1,250 億円程度（前回発表予想：未定）

### <単独>

売上高	4 兆 8,200 億円程度（前回発表予想：4 兆 8,800 億円程度）
経常利益	1,500 億円程度（前回発表予想：未定）
当期純利益	1,000 億円程度（前回発表予想：未定）

（注）柏崎刈羽原子力発電所については、6号機および7号機の運転計画を織り込み算定しております。